

YCU 長期留学プログラム 派遣学生報告書

氏名	M.H.	学部・学科	国際教養学部国際教養学科都市学系
学年	4年	派遣国	ドイツ連邦共和国
派遣大学	ゲーテ大学（社会科学部）		
期間	2023年 9月 1日～ 2024年 8月 13日		

【生活編】

1. 滞在先

滞在形態	学外の学生寮					
部屋	個室					
設備	*共同 = ○ 部屋にあるもの = ○					
	トイレ	●	シャワー	●	洗面所	○
	キッチン	●	冷暖房	○	冷蔵庫	○
滞在費	約 (140,000) 円 *1ヶ月あたりの寮費や家賃					
移動	(徒歩) で、約 (25) 分 *大学までの所要時間と移動方法					

転居した場合は、上記表をコピーして滞在先 2 の内容を追加してください。

2. 日常生活

(1) 1ヶ月の生活費

項目	金額	内訳
家賃	37,000 円	
食費	40,000 円	
学用品購入費	10,000 円	
交通費	20,000 円	
交際費	20,000 円	
その他	10,000 円	
合計	147,000 円	*概算で記録してください。

(2) 治安状況・危険地域など

フランクフルト中央駅付近の治安が悪く、続くショッピングストリートなども雰囲気は良くないですが、大学の付近は治安がよく、安心して過ごすことができました。

3. 海外旅行損害保険について

保険の名称	学研災付帶海学		
加入期間	(10) ヶ月間	保険料	(120,000) 円

現地の国／大学指定の保険に加入した場合は、下記も記入してください。

保険の名称	なし		
加入期間	() ヶ月間	保険料	() 円

4. 滞在都市についての情報

滞在都市／町（フランクフルト・アム・マイン）

フランクフルトは、ドイツのヘッセン州にある重要な都市で、金融と交通の中心地として知られています。この都市は、ヨーロッパ中央部に位置し、国際的なビジネスや金融の拠点となっています。特に、欧州中央銀行やドイツ銀行の本部があるため、金融の一大拠点です。フランクフルトの歴史は古く、中世から商業都市として栄え、重要な交易ルートの交差点として発展しました。市内には、中世からの歴史的建造物や近代的な高層ビルが混在し、独特的の風景を形成しています。特に、旧市街にある「レーマー広場」や「聖バルトロメウス大聖堂」は観光名所として人気があります。

また、フランクフルトは文化的にも豊かで、多くの博物館や美術館があります。特に「シュテーデル美術館」は、ヨーロッパの古典から現代までの芸術作品を収蔵しており、訪れる価値があります。文学の面でも、フランクフルトはゲーテの生誕地として知られており、ゲーテの家も観光スポットとなっています。

フランクフルトは交通の要所でもあり、フランクフルト空港はヨーロッパで最も忙しい空港の一つです。鉄道網も発達しており、ドイツ国内外へのアクセスが非常に便利です。

食文化も多様で、ドイツ料理だけでなく、国際色豊かなレストランが多数存在します。特に、地元の名物「アップルワイン」やソーセージ、プレッツェルは試してみる価値があります。

【学業編】

1. 大学情報

大学	Goethe Universität Frankfurt am Main	所在地	Theodor-W.-Adorno-Platz 1,60323 Frankfurt
最寄空港	フランクフルト空港	空港からの距離	電車で 40 分ほど
空港 ⇄ 大学	(Flughafen(S Bahn) -Frankfurt HBF -U1.2.3.8 Holzhausenstraße→ 5 分徒歩) *移動手段		
学生数	45,000-50,000 人	留学生数	6,000-7,000
学部	<ul style="list-style-type: none"> • 法学部 (Fachbereich Rechtswissenschaften) • 経済学部 (Fachbereich Wirtschaftswissenschaften) • 社会科学部 (Fachbereich Gesellschaftswissenschaften) • 教育学部 (Fachbereich Erziehungswissenschaften) • 心理学部 (Fachbereich Psychologie und Sportwissenschaften) • 神学部 (Fachbereich Evangelische Theologie und Katholische Theologie) • 言語文学部 (Fachbereich Sprach- und Kulturwissenschaften) • 歴史・文化学部 (Fachbereich Geschichts- und Kulturwissenschaften) • 生物・化学部 (Fachbereich Biochemie, Chemie und Pharmazie) • 物理・数学部 (Fachbereich Physik und Mathematik) • 地球科学部 (Fachbereich Geowissenschaften/Geographie) • 医学部 (Fachbereich Medizin) 		
学部/専攻	<p style="text-align: center;">*留学先大学の保有する学部をすべて記載してください。</p> <p style="text-align: center;">*留学中に所属した学部/専攻を記載してください。</p>		

2. 週間スケジュール

① (10)月～(1)月

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日
午前		Critical qualitative reserch	卒業論文のプロジェクト		
午後		Akademi C 日独 Tandem	卒業論文のプロジェクト 日独 Tandem	Akademi C 日独 Tandem	Cities and Justice

② (4)月～(6)月

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日
午前	Akademi D	Soziologische kurs	ゼミ	Akademi D	Soziologische kurs
午後		(gender in Society) 日独 Tandem	(gender in Society)	日独 Tandem	バレーボール

3. 履修内容

科目	Critical qualitative research		
履修期間	2023 冬	単位数	9 ECT
授業内容／形態	主に人権や移民、デモなどに焦点を当てて、量的データ・質的データで調査する方法を学ぶ。 <授業形態> セミナー <学生数> 10 人		
成績	なし		

科目	Akademi C		
履修期間	2023 冬	単位数	9 ECT
授業内容／形態	留学生向けのドイツ語授業。 <授業形態> セミナー&グループディスカッション<学生数> 20 人		
成績	2.0		

科目	Cities and Justice <u>Normative Theory and Practice - Einzelansicht</u>		
履修期間	2023 冬	単位数	9 ECT
授業内容／形態	世界中の都市への人口集中によって、資源と空間の枯渇によって社会構造が変わっていくという課題に、実践的な解決方法を考える授業。住宅問題や政策決定、参加型評価に言及する予定。 <授業形態> セミナー&グループワーク <学生数> 22 人		
成績	1.7		

科目	Deutsch (B1+/B2) sprechen und schreiben über: Sozialisation - alles Zufall oder doch nicht?		
履修期間	2024 夏	単位数	3 ECT
授業内容／形態	ドイツ語で、社会学のテーマについて、書き、話し合う。		
成績	3,3		

<総括>

(1) 全体的な感想

*留学生活全体を通しての気づきや学びをまとめてください。(800字以上)

留学生活を振り返ると、現地での思いがけない人との出会いや経験が、私の将来や研究に大きな影響を与えてくれた。現地で受けた「City and Justice」の授業では、子どもと大都市に関わる諸問題が取り上げられ、世界での子どもの権利や子どもの参加に関するプロジェクトを知ることができ、取り組んでいる卒業論文研究の基本的な考えに大きく寄与している。また、およそ8ヶ月にわたりスタッフとして関わったミニミュンヘンにおいて、都市計画における子どもの協働のプロジェクトに参加し、実践的な方法を学ぶことができた。1974年にミニミュンヘンが生まれてから、「子どものまち」は世界中に広まった。創始者であるスタッフたちから直接、子どものまちを続ける理由や、ミュンヘン市との関係性、また地域企業や住民からのサポートなど、ミニミュンヘンについて詳しく知ることができた。卒業研究では、ミュンヘン市の郊外にある大規模住宅地において子どもの遊び環境を調査したが、子どもたちとともにワークショップを行うなかで、協力してくれた中学校のスクールワーカーさんや、市関係者と、子どもの視点を取り入れる重要性や、地域社会との協働の意義を確認することができた。

また、ドイツをはじめとするヨーロッパの人々の暮らし方や価値観に触れることで、私の中で大きな価値観の転換があった。例えば、個人の自由を重視しつつも、社会全体の福祉や環境に配慮する姿勢は、私がこれまで抱いていた「個人と社会」の関係に対する考え方を180度変えるものであった。また、彼らのコミュニケーションスタイルは、率直でありながらも相手を尊重するもので、対話を通じて真の理解を深める方法を学んだ。自然体で休日はビアガーデンに集まり友人や家族と時間を楽しむドイツ人のライフスタイルは、余暇や休むことを大事にするモットーから生まれていて、私もこんな風に暮らしたいと思うようになった。

さらに、旅行を通じてヨーロッパ各地を訪れることで、歴史や文化を実際に目で確認する機会が多くあった。パリの壮大な建築物や、プラハの中世の街並みを歩く中で、各都市の成り立ちや背後にある歴史を深く理解することができた。これらの体験は、生きた教養を私にもたらした。もちろん、異国での生活には多くの困難があり、言葉の壁や文化の違いに直面し、時には孤独を感じることもあった。しかしそんななかで、親切な現地の人々に助けられ、支えてもらった。彼らの温かさから、他人に対する思いやりと配慮の大切さを学び、異文化のなかで他者とともに生きるための姿勢を身につけることができた。この留学経験は、私にとって単なる学問的な成長だけでなく、人間としての成長をもたらした貴重なものとなった。

(2) 今後の展望 *この経験を今後どのように活かしていきたいかをまとめてください。(400字以上)

私は、卒業研究において、大規模住宅地に計画された緑地や公園、マンション内の中庭空間などが子どもの遊び場としてどのように機能しているのか、そして子どもたちは実際にどのように住宅地を使って遊び、過ごしているのか利用実態に着目した。研究を進めるにつれて、ただ芝生や公園があるだけでは利用される公共空間にならないことに気づくとともに、子どもたちをはじめとした地域住民全員が利用することができる空間デザイン・植栽デザインはどのようなものになるだろうと興味を持つようになった。今後は、ランドスケープを学ぶことのできる博士前期課程に進学する予定だ。子どもたちの遊び場であり、ほっと休憩できる場所であり、生態系を守り、緑を保全する場所など、多様な機能を持つ公共空間を増やしていく仕事に関わりたいと考えている。

1年間の滞在でドイツ語がかなり上達したため、ドイツ語検定C1またはIELTS8.0に合格することを目標に、今後も語学を磨いていく。可能であれば、ドイツをはじめとしたヨーロッパにおいてランドスケープ事務所等で働いてみたいと考えている。

(3) 後輩へのアドバイス *留学を希望する学生にむけてのアドバイスをお願いします。(400字以上)

留学を予定している皆さんに、いくつかのアドバイスをお伝えします。まず、現地の文化や習慣、そして大学で出会う友人や先生に対してオープンな心を持つことが重要です。ドイツをはじめ、ヨーロッパでは日本と異なる価値観やライフスタイルが根付いています。異なる考え方や行動に触れることで、自分自身の視野が広がり、新たな発見や成長が得られると思います。

次に、新しい人々との交流の機会を意識的に作ってください。授業やプロジェクトに参加するだけでなく、例えば語学交換のタンデム会や、留学生会、スポーツなどにも挑戦してみてください。毎週顔を合わせ、おしゃべりするコミュニティを一つ持っているだけで、孤独や不安を解消することができると思います。

また、困難に直面したときは、一人で抱え込まずに助けを求めるのを忘れないでください。異国の地での生活には挑戦がつきものですが、その経験を通じて得られるものは非常に大きいです。最後に、自分自身を信じ、留学先でのあらゆる経験を大切にしてください。これらの経験は、将来にわたってあなたの財産となることを祈っています！